



地場産業の 景気 天気図



晴れ



晴れ一部曇り



曇り



曇り一部雨



雨

好調

不調

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海面養殖	 ▶ 	マダイの浜値は760円/kg強と前月比約10円値下がりした。引き続き販売量は増加傾向にあるが、新型コロナの影響を注視する必要がある。ハマチの浜値は、1,080円/kg前後と横ばいで推移している。在池尾数は少なく、浜値が上昇する可能性が高い。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
水産加工品	 ▶ 	削り節の原材料であるカツオは、バンコク相場(国際相場)では前月比50~100ドル値上がりし1,650~1,700ドル/トンとなった。カツオ以外の資材も値上がりしているが、資材などは価格交渉が困難であるため、カツオに対する値下げ要求が強まっている。国内相場は210円/kg前後と若干の値下がり。前月から下げ基調が続いているが、原油高の影響は大きく、今後の動向には注意が必要。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
タオル	 ▶ 	3月のタオルの生産状況を表す今治地区の綿糸受渡数量は4,182梱で、前年同月比5.4%増、2年ぶりに4,000梱を上回った。綿糸相場は、主力の20番手は134,000円/梱と、前年同月比59.5%高となった。綿糸価格や資材価格の上昇により、自社ブランド製品を中心に値上げの動きが広がっている。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況	
製紙	印刷・情報用紙 新聞用紙	 ▶ 	印刷・情報用紙の2月の国内出荷は、前年同月比0.7%増と2ヵ月連続の増加。印刷用紙は、製紙各社の値上げ発表を受けての前倒し需要の影響が大きく、20年比では8.0%減。新聞用紙は前年同月比3.0%減で9ヵ月連続の減少。ロシア、ウクライナからの紙原料の輸入量は多くないため、直接的な影響は少ないが、紛争長期化による資材高騰など間接的な影響を注視する必要がある。
	衛生用紙	 ▶ 	2月の国内出荷は、前年同月比16.4%増で4ヵ月連続の増加。トイレット紙が同17.9%増、タオル用紙が同7.3%増、ティッシュが同17.7%増とそれぞれ増加した。前年の出荷が前々年(20年)比で大幅に減少していたため、その反動増とみられる。
	紙加工など	 ▶ 	段ボール原紙の2月の国内出荷は、前年同月比1.0%増で4ヵ月連続の増加。加工食品向けや通販向けが引き続き好調。白板紙も同2.8%増で12ヵ月連続の増加だった。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
一般機械 金属製品 鉄鋼	 ▶ 	2月の建設機械の出荷は、前年同月比25.4%増と16ヵ月連続の増加。輸出向けが38.9%増と、好調な輸出が引き続き全体をけん引している。半導体製造装置関連や各種産業機械など、多様な分野で需要は引き続き旺盛。ロシア・ウクライナ情勢による直接的な影響はみられないが、紛争長期化による景気悪化での設備投資意欲減退や資材高騰など、間接的な影響を引き続き注視する必要がある。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
造船	外航  ▶ 	手持ち工事は2～2年半程度を有しており、高操業で推移している。日本船舶輸出組合によると、3月の輸出船契約実績は49隻・182万7千総トンで、前年同月比21.2%増だった。鋼材価格などの値上がりを受け、船価も前年同時期と比べて1～2割程度上昇している。
	内航  ▶ 	手持ち工事は、1～1年半程度を有している。潜在的な新造・リブレイス需要はあるものの、荷動きの先行きが不透明なことから、引き合いは低調。競合他社との受注競争が激しく、鋼材や資機材価格の上昇もあって、採算面は厳しい状況が続いている。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
海運	外航  ▶ 	BDI(バルチック海運指数)は4月5日時点で2,213だった。ウクライナ・ロシア紛争の継続で、短期的に先行きが不透明な状況となっている。黒海沿岸からの穀物や石炭の積み出しが滞る一方、代替となる地域での荷動きが活発になりそう。コンテナは、荷動き・市況とも引き続き高い水準で推移している。
	内航  ▶ 	内航海運組合総連合会によると、2月の輸送量は、貨物船が前年同月比変わらず、タンカーが同1.1%減となった。貨物船は鉄鋼関係が堅調に推移している。タンカーは、寒波の影響で発電所向けの黒油(重油)やケミカル船などが堅調。ただ、荒天による輸送停滞もみられた。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
建設	 ▶ 	3月の県内の公共工事請負金額は、前年同月比7.3%減の198億円であった。「県」「市町」「独立行政法人等」で前年を下回った。2月の住宅着工戸数は前年を14.6%下回る444戸となった。利用関係別では、「貸家」が前年を下回った。

業種	現状 ▶ 3ヵ月先の見通し	最近の状況
観光	 ▶ 	2月の道後温泉旅館宿泊客数は、前年同月比108.7%増の30,250人と、3ヵ月連続の増加となった。 主要観光施設入込み客数は、オミクロン株の急激な感染拡大の影響を受け、東予(前年同月比14.4%減)、中予(同1.7%減)、南予(同15.0%減)、すべての地域(同11.1%減)で前年を下回った。 3月21日にまん延防止等重点措置が全て解除され、また、「県民割」の対象が順次拡大されたことなどから、今後、需要の回復が期待される。